

(参考)

第9回全国旅行動態調査結果の主なポイント

【概況】

平成12年9月から13年8月までの1年間に、観光を主目的とする国内宿泊観光旅行に行った者の割合は5割を切って約49%となり、5年前の数字(55%)から6ポイント低下した。

1回の国内宿泊観光旅行にかけた平均費用は約3万4千円で、5年前(3万8千円)より約1割低下した。

宿泊観光旅行における目的地での行動は、「温泉などでの休養」は根強い人気だが、「自然・風景鑑賞」は減少した。

日帰り観光旅行も、行った者の割合、平均総費用とも低下した。

海外旅行に行った者の割合は8.8%で、これも5年前の割合(9.1%)からわずかではあるが低下した。

【性・年齢階層別特性】

国内宿泊観光旅行に行った平均回数は、男性では60歳代が最も多いが、女性では20歳代と50歳・60歳代とピークが2つある。

【休暇制度と旅行回数】

週休2日制や夏季特別休暇などの連続休暇制度が有る有職者は、無い有職者に比べ、宿泊観光旅行の回数が1.4～1.9倍多い。

【旅行の発着地分析】

北海道、東北、九州・沖縄における宿泊観光旅行は、域内での旅行が多いが、四国では域内よりも近畿地方への宿泊観光旅行が多い。